

あなたも私も神のもの

マタイ22:15~22 / 笠原光見

前に、小林武彦さんという生物学者が書いた本を読んでいたらこんなことが書かれていました。

「生命が地球に誕生する確率を表わすのにこんなたとえがあります『25メートルプールにバラバラに分解した腕時計の部品を沈め、ぐるぐるかきまぜていたら、自然に腕時計が完成し、しかも動き出す確率に等しい』」。

つまりいのちが地球に誕生したことは信じられない奇跡のような出来事なんだということです。私のいのちも、みなさん一人一人のいのちも、まさに奇跡のいのちなんです。その奇跡のいのちが勝手に、自然に、偶然にできたって考えられないでしょう。

聖書はいいます。この宇宙万物すべてのものの造り主であり、オーナーであり、いのちの源である神が、私たち一人一人のいのちを、思いを込めて、愛を込めて、計画と、目的を持って造られたんだ、と。しかも、神は神ご自身に似せて人を造られたんだと聖書はいうんです。

みなさん、自分に似た、奇跡のいのち、が与えられたとしたらどうですか。それは、それは愛おしくて、可愛くて、大切に仕方がないんじゃないでしょうか。

僕には二人の息子がいますが、奇跡のいのちとして可愛くて仕方がないし、自分と似ているところがあって愛おしくて仕方がない。大切な、大切な宝物です。

神さまは、私たち一人一人のいのちを、思いを込めて、愛を込めて、ご自身に似せて造られた。だから、私たちのいのちは神さまにとって大切な、かけがえのない、何物にも代えられない宝物なんです。

自分の宝物はしっかりと守りたいじゃないですか。自分のものとして何時までも置いておきたい、一緒にいたいと思うでしょう。傷つけられたり、汚されたり、なくしたり、奪われたりしたくなんかない。

でも、人は、神さまなんか知らない、知らない、関係ない、神を無視し、否定し、背を向け続け、自己中心に生きて、奇跡のいのちを傷つけ合い、奪い合い、大切にできない、そんな姿がある。聖書は、神に背を向け続ける人の姿を罪だという。

それでも、たった一つの奇跡のいのち、かけがえのない宝物だから、いのちに代えてでも守りたい、支えたい、救いたい。それが神さまの私たちに一人一人に向けられている熱い思いであり、限りない無償の愛なのです。

その神さまのこの世界と私たち一人一人に向けられているあたたかい思いと、限りない無償の愛は、ひとり子イエス・キリストのいのちが差し出されたことによってはっきりと現わされました。

神さまは、神さま似の、奇跡のいのちであるあなたのことを心から愛している。だから守りたい、支えたい、救いたい。神さまの愛を信じて、与えられた奇跡のいのちを大切にし合い、一度きりの人生を穏やかに、朗らかに、和やかに生きてほしいんです。

さて今日の福音書でファリサイ派とかヘロデ派という名前が出てきますが、彼らは民の指導者であり、宗教的、政治的に力を持つ者たちです。イエスさまをどうにかして排斥しよう、排除しよう、抹殺しようと企てるんです。恐ろしいことです。

今も昔も、上に立つ人間が腐敗していると一般市民は大変でよね。当時のユダヤ支配者層は、腐敗していたことが見て取れます。自分たちの思い通りに事をすすめるためには、人のいのちを傷つけること、踏みつけにすること、奪うことを厭わない。神さまの愛の心に背を向ける人々の姿がある。

イエスさまは、深い憐れみと、愛をもって人々に呼びかけ続け、語りかけ続け、働きかけ続けます「神さまの思いと、言葉と、愛に立ち帰るように」と。

イエスさまのもとに来たヘロデ派の人々も言っているとおりです。イエスさまは、だれをもはばからず、人々を分け隔てせず、真理に基づいて神の道を教えていたんです。

ヘロデ派の人々は、イエスさまが真理に基づいて神の教えを伝えている、と認めておきながら、その教えと道に従うことを無視し、拒否し、イエスさまを排除しようとするんです。そのことはつまり、自分たちの考えや、教え、示す道こそが真理だと言っていることと同じでしょう。しかし、支配層が示している道や教えの成果、結果は、腐りきった政治と宗教という果実でしかないし、そこから生まれる痛み、苦しみ、悲しみは、弱い立場の人間に背負わされ、そして、更に搾取され続けていくしかなかった。

イエスさまは、愛する者たちの苦しみや、悲しみを、見て見ぬふりなんかできないし、無関心でなんかあ

れない。奇跡のいのちを守りたい、支えたい、救いたい。だから誰にもはばからず声を上げ続ける。誰一人として分け隔てせず、神さまの思いと、言葉と、愛の福音を、声を大にして叫び続けるんです。

ヘロデ派の人々はイエスさまを罾にかけようとして尋ねます「皇帝に税金を納めることは律法に適っていることでしょうか、適っていないでしょうか」と。イエスさまが「適っている」といえば「結局のところお前はローマ皇帝の前に跪く者で、神に背を向ける者だ」と断罪される。また「適っていない」といえば「ローマ帝国に反逆している」といわれて訴えられる口実になる。

イエスさまは、ヘロデ派の人々の悪意に気づいていいます「偽善者たち、なぜわたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい」と。そこで、ヘロデ派の人々はデナリオン銀貨を持ってきてイエスさまに見せます。デナリオン銀貨には、ローマ皇帝の頭部と、宗教的な主張が刻まれていたそうです。たとえばティベリウス皇帝の時のデナリオン銀貨には「神にして聖なる大祭司」という言葉が刻まれていたそうです。

イエスさまはヘロデ派の人々に「これは誰の肖像と銘か」と尋ねると、彼らは「皇帝のものです」と答えます。そこでイエスさまは「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」といわれました。

皇帝という地位も、どのような権威も、究極的には神さまによって負わされているものでしかないし、皇帝であろうとも、ヘロデ派の人であろうとも、ユダヤ人であろうとも、日本人であろうとも、みんな等しく神さまのもの。どんな偉大で権威ある人も、どんなに小さくて弱い人でも、みんな等しく神さまのものです。

イエスさまは「神のものは神に返しなさい」といわれました。僕は、このイエスさまの言葉には「神のものだから神に帰りなさい」という思いが込められているようにも聞こえてくるんです。

みなさん、悪意を持ってイエスさまに接するヘロデ派の人々を心の中で「悪い奴らだ」とか「汚い奴らだ」と裁く自分がいたりしませんか。しかし、もしも自分がヘロデ派の家に生まれ育っていたなら、ということを考えると、彼らと同じようにイエスさまのことを排斥しよう、排除しよう、抹殺しようとする躍起になっていたかもしれないと思うんです。

ヘロデ派の人も、私という人間も救いを必要とする、愛を必要とする同じ人間であり、同じ罪人。みんな神さまの愛と、救いを必要とする同じ人間です。

イエスさまは、誰をもはばからず、誰をも分け隔てせず、福音のみことばを人々に伝えました。ファリサイ派の人も、ヘロデ派の人も、私たちも、みんな神さまのもの。神さまにとって奇跡の大切ないのちの存在です。神の道に立ち帰ってほしい、神さまの思いと、言葉と、愛とに立ち帰ってほしい。それが神さまの御心でしょう。

神は、神のものであるあなたという奇跡のいのちの救いのためなら、いのちをも差し出すことも厭わない。主イエス・キリストは私たちのすべての罪を背負い、十字架かかり死んでくださいました。そして三日目に死から復活し、永遠のいのちの約束をも示してくださったんです。すべては神のものであるあなたという奇跡のいのちのために、救いのために、共に生きるために。

先週、久しぶりに八木重吉というクリスチャンの詩人の詩を読み、また心が温められました。特に「桃子よ」というタイトルの自分の娘のことを思って書かれた詩が心に響きました。このような詩です。

ももこよ おまえがぐずってしかたがないとき

わたしはおまえに げんこつをくれる

だが 桃子 お父さんの命が要るときがあったら

いつでもおまえにあげる

わが子を思い厳しくしつける親の思いと、わが子のためならいつでもいのちを差し出すという親の愛が歌われていて、心に響いてくるんです。

神さまは、私たちのいのちのために、救いのために、ひとり子イエス・キリストのいのちを差し出してくださいました。そして、キリストの復活によって永遠のいのちの約束も与えてくださったんです。神は、神のものであるあなたのことを大切に思い、深く愛しています。

私たちは、神さまがイエス・キリストのいのちを通して示してくださった思いと、言葉と、愛に立ち帰り、神さまの思いと、言葉と、愛にこたえて、互いに奇跡のいのちを大切にし合い、いたわり合い、助け合い生きていく者でありたい。そして、私は神さまのものである、という平安の中で、感謝と、喜び、賛美をもって生きていく者、生かされていく者でありたいです。